

八王子市委託事業 病児保育室「はる」の開設

八王子市の委託事業として、平成26年4月28日に病児保育室「はる」を開設いたしました。病児保育室「はる」は、八王子市の委託を受けて、子育て中の方が仕事の都合や傷病、出産、冠婚葬祭等により家庭で育児が出来ない場合に、**病気のお子さんを一時的にお預かりし**、子育てと就労の両立を支援する施設です。



医療法人社団永生会
理事長 安藤 高朗



病児保育室「はる」ご利用案内

- ♥ 基本保育時間
9:00~17:00 2,500円 / 1日
 - ♥ 延長保育時間
 - ① 8:00~ 9:00
 - ② 17:00~18:00 550円 / 30分
 - ♥ 給食代 500円 / 1食
 - ♥ おやつ代 100円 / 1回
- ※ 減免制度がありますので、詳しくは八王子市子ども家庭部保育幼稚園課 (042-620-7248) にお問い合わせください。

病児保育室「はる」ご利用方法

★ご利用にあたりましては、八王子市子ども家庭部保育幼稚園課 (042-620-7248) に**事前登録が必要**になります。

★原則、**前日予約制**になり、**医師の署名押印のある「連絡票」が必要**になります。当日受入につきましてはご相談下さい。**(土曜日の当日受入は出来ません。)**

★**病児保育室「はる」をご利用の際は、042-663-0111 (南多摩病院代表電話) に平日8時~17時、土日祝日10時~16時の間に、病児保育室「はる」利用希望の旨、お伝えいただき、前日予約をして下さい。**



~編集後記~

今回から、南多摩病院の各部署から選出された広報誌作成委員が中心になり「南十字星」を作成することになりました。

暑い夏に気を付けなければいけない熱中症や食中毒の予防について特集させていただきました。これからは、夏本番ですので、今回の記事が少しでもお役にたてば幸いです。より良い紙面にしていきますので引き続き宜しくお願い申し上げます。(A.S)



◆ 南多摩病院のロゴマークは、赤十字と共に、職員のすべてに対するプラス1精神を表しています ◆

八王子市内で唯一、24時間365日対応する南多摩病院小児科

前号から、南多摩病院の各診療科についてご案内させていただいておりますが、今回は八王子市内で唯一、24時間365日対応している、当院の小児科についてです。

また、平成26年4月28日から、八王子市の委託事業としてスタートしました病児保育室「はる」についても、連日、ご利用いただいております。最終頁にて併せてご案内させていただきます。



小児科受付



小児科 *Pediatrics*

小児科主任医長 中野 裕史

当院の小児科は、東京都立小児病院の統廃合による八王子小児病院の移転・閉院に伴い、その一部機能を南多摩病院で継承し、平成22年4月から診療を行っております。

常勤医師5名により平日(月曜日~金曜日)の日中に一般診療を行い、また休日や夜間帯においては非常勤の医師も加わり、救急診療を行い、各種急性疾患を中心に診療しております。このように、地域の期待に応えるべく、八王子市内で唯一、24時間365日対応できる体制を整えております。さらに、外来診療では、成人の方の診療室・待合室と完全に隔離し、小児科専用の診療室・待合室を設けていること、小児専用の入院病棟を設け、入院治療にも対応していることが、当院小児科の大きな特徴と言えます。

何よりも、お子様・ご家族様がともに安心と満足いただける医療を提供できるように職員一丸となって取り組んでおります。



小児専用入院病棟

暑〜い夏を乗り切るために

南多摩病院 看護部

暑い季節が始まりました。「熱中症」、「日射病」、「脱水症」などなどこんな病気の名前を聞くことも多くなりました。今回は「熱中症」についてお話します。

暑〜い季節、気温が高い状態が続くと、汗をかきます。汗は体の体温を調整するためにかきます。暑さに加え、湿度が高いと、汗は蒸発せず、熱がこもったままの状態になり、体の中の熱が放出されなくなってしまいます。この状態を「熱中症」といいます。

症状は、めまい、筋肉痛、大量の発汗から始まり、それが進むと、頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐（おうと）などの症状が出現します。さらに悪くなると、意識障害・けいれん・手足の運動障害・体に触ると熱いくらいの高体温などの症状が現れます。

ご存知ですか？「熱中症」は自宅でも発症します。屋内だからと安心せず注意しましょう。「熱中症」にならないためには、のどの渇きを感じる前に、こまめに水分を取りましょう。のどが乾いてしまってからでは水分が失われすぎていることがあるようです。汗をかいたら、水分と適度な塩分が必要です。市販の経口補水液（OS-1 やポカリスエットなど）は自宅でも作ることができます。作り方を参考にしてみてください。

★高齢者がいるご家庭は周囲のサポートが不可欠です。「熱中症」が始まっても体の異変に気がつきにくくなっています。こまめなケアを心がけましょう。



経口補水液の作り方



砂糖 40g（上白糖大さじ4と1/2杯）と
食塩 3g（小さじ1/2杯）を湯冷まし1リットルによく溶かす。



かき混ぜて飲みやすい温度にする。



果汁（レモンやグレープフルーツなど）を絞ると飲みやすくなり、カリウムの補給にもなります。

上白糖大さじ
4と1/2杯



第7回 南多摩病院公開講座を開催します！！

参加費無料 先着100名

◆日時：平成26年8月23日（土）14時～16時

◆場所：南多摩病院8階会議室

◆テーマ：① 尿路結石とおとなのオシッコの話

担当：南多摩病院 泌尿器科医師 花輪 靖雅

② あつ〜い夏！イキイキと過ごすために

担当：南多摩病院 看護師 山田 順子・岡留 梓・長浜 行世



お問い合わせは、南多摩病院医療連携室まで ☎ 042-663-0111（代表）

食中毒に注意しましょう！

南多摩病院 臨床検査科

夏場（6～9月）は細菌やウイルスが原因となる食中毒が多く発生しています。

細菌性食中毒とは？



① 感染型

食品中の細菌が体内に入り、腸の中で増殖して食中毒を起こします
例）カンピロバクター、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌（O-157など）
サルモネラ、赤痢菌、コレラ など

② 毒素型

食品中で増殖した細菌から発生する毒素を食べることによって食中毒を起こします。この場合、加熱などによって細菌自体殺菌しても毒素が耐熱性であれば食中毒になります。
例）黄色ブドウ球菌、ボツリヌス菌、セレウス菌

ご家庭でも食中毒を予防するために、「食中毒予防の三原則」を徹底しましょう！

食中毒予防の三原則



① 微生物を「つけない」 … 微生物は少量でも病原性があります

- ・肉や魚の汁が他の食品につかないように分けて保存する
- ・手洗いを徹底する、食品盛り付け時には手袋をする
- ・包丁、まな板などは用途ごとに使い分け、調理器具の洗浄・消毒を行う

② 微生物を「ふやさない」 … 食品は室温では放置させない

- ・冷蔵では10℃以下、温蔵では65℃以上でそれぞれ保存する

③ 微生物を「やっつける」 … 食中毒を起こす微生物のほとんどは加熱で死滅させられます

- ・十分に加熱をする（75℃で1分以上）
- ・カキ・シジミなどの二枚貝は85～90℃で90秒間以上加熱する

詳しくは東京都の食品安全情報サイト「食品衛生の窓」をご覧ください

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/index.html>



南多摩病院は、八王子市内の二次救急病院で唯一、細菌検査室を完備しております。食中毒や肺炎などの原因菌を迅速に診断し、適切な治療を行っております。